

平成28年度医学部看護学科入学者選抜

3年次編入学

(第2次募集)

試験問題

総合問題

注意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題紙は5枚です。指示があってから確認してください。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 4 問題紙は持ち帰ってください。

1

動脈硬化に関する次の文章の（ア）～（コ）に最も適当な語句を入れなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

動脈硬化とは、動脈壁の弾力性と柔軟性を失った状態であり、臨床上最も重要な変化を（ア）と呼ぶ。（ア）は、主に大動脈のような（イ）型動脈や冠状動脈のような（ウ）型動脈の内膜に（エ）が沈着し、血管内腔面に盛り上がった（オ）を形成する。動脈硬化の発生に促進的に作用する危険因子には、（カ）、（キ）、（ク）、（ケ）、（コ）があげられる。

2

虚血性心疾患に関する次の文章の（ア）～（コ）に最も適当な語句を入れなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

虚血性心疾患とは、一般的には冠状動脈の（ア）によって発症することが知られている。この疾患は、心筋障害が可逆的な状態の（イ）と不可逆な状態の（ウ）に分類される。また、冠状動脈の病変の安定性の分類から、（イ）が含まれる（エ）という病態と、（ウ）が含まれる（オ）という病態に分類される。特に（オ）は、冠状動脈の内腔が急激に狭小化している状態を指し、（カ）、急性（ウ）、心臓突然死の病名が含まれる。急性（ウ）は、心電図上の波形の（キ）の部分の特徴的な変化によって分類され、冠状動脈の主分枝が完全閉鎖し、心内膜から心外膜まで壊死した状態を（ク）とよぶ。（ク）は、発症後 6 時間以上経過すると心電図上には（キ）とは異なる特徴的な波形の異常（ケ）が出現し、この波形はその後も出現し続け、過去の（ウ）の既往を示すことになる。一方、心内膜付近に限局した壊死の状態を（コ）と呼ぶ。

3

肺がんは、臨床的には小細胞がんと非小細胞がんに分類されるが、そのように分類される理由について簡潔に説明しなさい。

4 次の文章の（ア）～（コ）に最も適当な語句または数字を入れなさい。
ただし、同じ記号には同じ語句または数字が入る。

エリクソンは、「人間は（ア）とのかかわり合いのなかで発達する」ととらえ、人生段階の全体を（イ）という言葉で表現した。そして、人間の発達を（ウ）段階で示し、各発達段階の心理・社会的危機を、同調要素と（エ）要素という対の形であらわし、その葛藤から生きていく力である心理・社会的な強さがあらわれるとした。

例えば、乳児期では、基本的（オ）が同調要素、基本的（カ）が（エ）要素であり、この葛藤から（キ）という基本的な強さが獲得される。青年期では、（ク）対（ケ）という葛藤を経験することで、（コ）という基本的強さが獲得される。

5 次の文章の（ア）～（コ）に最も適当な語句を入れなさい。

ペプロウは、1952年に出版した著書『（ア）』のなかで、看護とは、「創造的、建設的、生産的な個人生活や社会生活をめざす（イ）の前進を助長することを目的とした（ウ）手だてであり、成熟を促す力である」と述べた。そして、看護師と患者との関係には、順に、（エ）、（オ）、（カ）、問題解決という4段階があり、患者の自立を促進するために、両者が一緒に問題解決法を検討していくことの重要性を唱えた。

オレムは、患者の自立に関して、健康逸脱などによってセルフケアを行う能力が十分でなくなった場合、その程度（セルフケア要件）をアセスメントし、必要な援助を行うのが看護実践であると説明した。そのため、オレムの理論は「セルフケア（キ）理論」とよばれ、セルフケア要件は、すべての人に共通する（ク）セルフケア要件、（ケ）上のセルフケア要件、（コ）によるセルフケア要件の3つに分類される。

6 チームナーシングとプライマリーナーシングの看護方式を説明しなさい。
そして、それぞれの看護方式を用いる場合の看護管理上における利点と欠点を一つずつ記入しなさい。

7

筋萎縮性側索硬化症患者に関して、(1)及び(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の文章の(ア)～(コ)に最も適当な語句を入れなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

筋萎縮性側索硬化症は、(ア)運動ニューロンと(イ)運動ニューロンがともに侵され、支配されている筋の筋力低下や(ウ)によって、(エ)運動が(オ)性に障害される病態である。食塊が飲み込みにくいなどの球麻痺がある。球麻痺が進行すると(カ)や(キ)、さらに呼吸筋が侵されると呼吸障害が起こる。一方で筋萎縮性側索硬化症では見られないとされている(ク)、眼球運動障害、感覚障害、(ケ)を(コ)という。しかし、(ケ)は長期生存者にはみられるようになってきた。

(2) 下記の各々の時期において最も優先される看護援助を述べなさい。

- ① 病名を診断されたとき
- ② 動作が不自由になったとき
- ③ 球麻痺の症状が出現してきたとき
- ④ 呼吸障害が出現してきたとき

8

次の文章を読んで、(1)～(3)の問いに答えなさい。

Aさんは80歳の女性で、脳血管疾患により1年前から寝たきりの状態となり、現在は自宅で療養している。Aさんの介護は主に嫁が行っている。食事は、むせることがあるが介助により全量摂取できている。また、排泄はオムツを使用している。Aさんの身長は150cm、体重は38kgである。数日前より発熱が続いているため入院となった。入院時、仙骨部に表皮剥離がみられた。

- (1) 脳血管疾患は、日本において介護が必要となる要因の第何位か。
- (2) 褥瘡発生の予測スケールの名称を一つあげなさい。
- (3) Aさんに対し、褥瘡を悪化または新しく発生させないために必要な看護を4つあげなさい。

9

高齢者の運動機能に関する次の文章の(ア)～(ソ)に最も適当な語句を入れなさい。

- (1) 加齢に伴う骨格筋量と骨格筋力の低下を(ア)という。
- (2) 高齢者の歩行の特徴には、若年者の歩行と比較して(イ)、(ウ)、(エ)等があげられる。
- (3) 運動系のアセスメントには(オ)、(カ)等がある。
- (4) 高齢者の転倒の要因は、内的要因と外的要因に分けられる。内的要因のうち、特に加齢変化によるものには(キ)、(ク)、(ケ)等がある。
- (5) 転倒を繰り返すことで再度転倒することを恐れ、身体行動・心理活動の範囲を自ら制限し、その結果、寝たきりや閉じこもりになり社会から孤立するという悪循環を起こすことを(コ)という。
- (6) 転倒により高齢者に多くみられる骨折は(サ)、(シ)等である。
- (7) 転倒して骨折するかどうかは、骨強度が関連する。骨の化学的組成に変化のないまま骨量が減少した状態を(ス)という。骨量減少に影響を与える要因には(セ)、(ソ)等がある。

10

認知症に関する（１）及び（２）の問いに答えなさい。

（１）「認知症」と「加齢によるもの忘れ」の違いを２つあげ、簡潔に説明しなさい。

（２）「認知症」と「せん妄」の違いを２つあげ、簡潔に説明しなさい。